CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)アイエム電子鳥取南工場新築工事	階数	地上2F
建設地	鳥取県鳥取市河原町西円通寺字畑ケ中45番1	構造	S造
用途地域	非線引き都市計画区域内	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月　予定	評価の実施日	2026年8月10日
敷地面積	40,375 ㎡	作成者	塚本 健太
建築面積	9,140 ㎡	確認日	2026年8月10日
延床面積	9,944 ㎡	確認者	塚本 健太

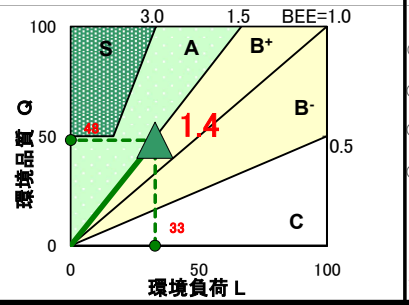
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

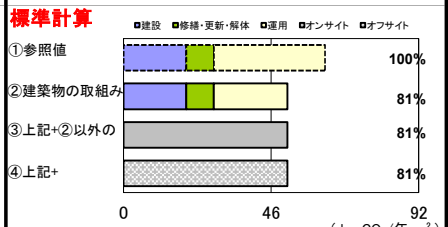
BEE =1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



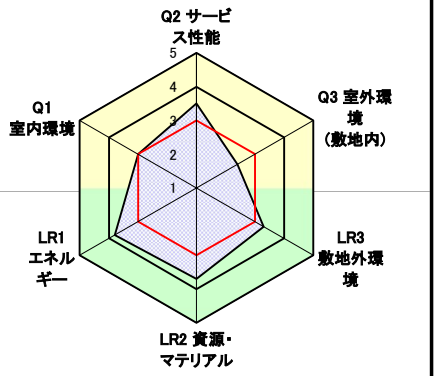
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

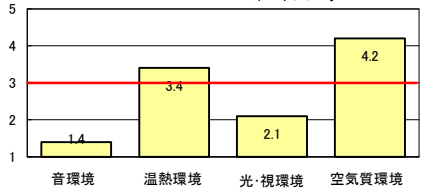
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



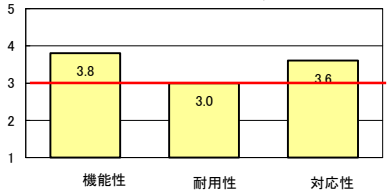
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.9

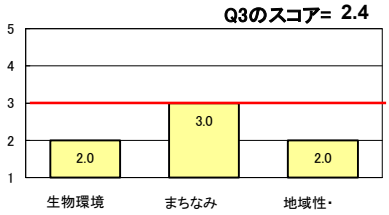
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.5

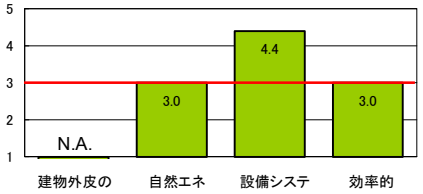


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.4

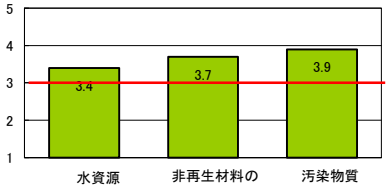


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.6

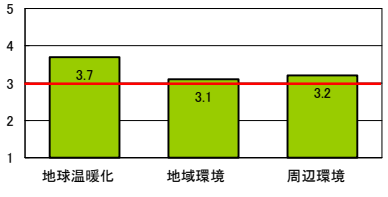
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.3



3 設計上の配慮事項

総合

耐久性の高い材料の採用や、維持管理の容易な計画とし、建物の長寿命化を目指す。
省エネ型設備機器、高効率機器の導入を図り維持管理費の低減に努める。

その他

特になし

Q1 室内環境

使用する材料は全てF☆☆☆☆を採用し、化学汚染物質発生を抑制する計画とした。

Q2 サービス性能

維持管理に配慮し、内装仕上げは防汚性の高い建材や、手入れが容易な素材を採用する計画とした。また、外装仕上げは板間にシーリングを使用しないサイディング等を採用し、メンテナンス回数が減らせる計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

防犯性の配慮し、敷地周囲は見通しの良いフェンスを採用した。
積極的な外構緑化を行い、良好な景観創出に取り組む計画とした。

LR1 エネルギー

断熱性の高い建材を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮する計画とした。
また、開口部には複層ガラス（遮熱Low-E)を採用することで、建物外皮の熱負荷抑制に配慮した計画とした。

LR2 資源・マテリアル

主要水栓に自動水栓、便器は節水型便器を採用することで、水資源保護に努める計画とした。積極的にリサイクル材使用し環境負荷低減に貢献する計画とした。また、OAフロアの採用により部材再利用の可能性向上を考慮した計画とした。

LR3 敷地外環境

駐車場及び自転車置き場の適切な台数を確保する計画とした。
また、屋外広告物照明の設置をなくし、周辺への光害に配慮する計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される